

「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	環境的想像力の研究：文学に描かれた人間生活の持続的発展		
研究代表者	高橋 守	役職	教授
フリガナ	タカハシ マモル	学位	文学修士
学科等	総合科学教育研究センター	Eメール	bobby@akita-pu.ac.jp
主な共同研究者 (学内)	スティーヴン・シュカート（総合科学教育研究センター）		
主な共同研究者 (学外)			
研究の内容			
<p>環境的想像力（エンバイロンメンタル・イマジネーション）という用語は、米国ハーバード大学ローレンス・ビュエル教授によって使用された語である。（<i>The Environmental Imagination</i>. Cambridge: Harvard University Press, 1995.）ビュエル教授の考察した範囲は大変広く、過去数世紀にわたるアメリカ合衆国の歴史的な創作物を、その考察の対象としている。私たちの研究においては、資源エネルギーと人間の暮らしのトレードオフの問題への解決策を探るために、同用語を使用する。問題の解決策を探るという意味では、かなり焦点の絞られた考察を行うことができる。環境的想像力という言葉により、私たちは小説のみならず映画、詩、演劇、哲学書、ノンフィクション等々のメディアを通して表現されてきた、クリエイターたちの想像力を駆使した作品のすべてを、考察の対象に広げ、環境的想像力の成果を取り出して整理分類する。</p> <p>様々なメディアを通して環境問題は描かれてきた。とりわけ現代小説（特にSF小説）とそれらのリメイク（逆に映画から小説へのリメイクもある）に描かれた近未来社会は、作家の想像力が生み出した、人類の姿であり、中には現実にさきがけて描かれることも頻繁にある。本研究では、現代のメディアに表現された環境的想像力の分析を通して、小説家や映画監督たちがどのような未来を想像してきたのか、人間の果たすべき社会的責任は何かを明らかにしたい。特に資源エネルギーと人間の暮らしのトレードオフの問題、すなわち、どうすれば人は、省エネと快適な暮らしのバランスがとれるかどうかという問題の答えを、環境的想像力の中に探ることによって示して行きたいと考えている。</p> <p>本研究は、環境問題を英語教育の現場に持ち込むための実践的な研究である。従って研究によって得られた成果は、内容中心教育の手法を使って、授業に還元をすることになる。</p>			

研究の独自性・アピール点

- (1) 各種メディア表現の中から環境的想像力の成果を取り出して整理分類することにより、無味乾燥な語学教育ではなく、現代人に必要な教養としての環境教育を取り入れた内容中心の語学教育を行うために必要な基盤資料を作る点。
- (2) 既に本学の図書・情報センターに蓄積した環境文学およびネイチャーライティングの書籍に加えて、新たに環境関連の書籍を蓄積することにより、図書・情報センターが持っている環境関連の情報提供機能を充実させる点。

期待される成果・波及効果

本研究によって語学教育の中に環境教育の要素を多く取り入れることにより、本学学生の意識を環境に対して無関心な態度から、ある程度環境を理解できる態度に変化させることが期待される。

関連する主な業績

- 高橋 守「作家と〈歩くこと〉の意味について」『文学と環境』1998年、創刊号、30-38.
- 高橋 守、スティーヴン・シュカート（共著）「Content-Based Instruction」『秋田県立大学総合科学研究彙報』2009年、第10号、19-26.

キーワード

環境的想像力、CBI(内容中心教育)、映画、小説